

死亡災害の風化防止

(見える化:安全伝承館)



「安全伝承館」



伝承とは 伝え聞くこと

過去の教訓から安全について改めて「気づき」「学び」

「考える」そして「やる気」を喚起する

【「安全伝承館」入口】

災害を風化させないために！

「伝承とは伝え聞くこと」
災害の教訓から安全について
改めて「気づき」「学び」「考える」
そして「やる気」を喚起する。



【災害年表(死亡者の推移)】

昭和19年の会社創設から平成23年までの68年間に283名の死亡災害が発生



【高圧感電死亡災害の多発から採用された現在の工法(高圧間接活線工法)と従来の工法(高圧直接活線工法)との比較】

パネル左(現行工法)

高圧活線作業用工具(ホットスティック)を使用した高圧間接活線工法(昭和63年6月1日全社一斉導入)による作業風景

パネル右及びマネキン(従来工法)

高圧活線作業用保護具を着用しての高圧直接活線工法(昭和63年5月末廃止)による作業風景

低圧線の切断作業時における電柱倒壊死亡事故

発生日時	2005年11月27日(火) AM10:10 前後
発生場所	福岡県 高宮町
災害種別	電柱倒壊
被害者	1名(作業員)
被害者	1名(作業員)
工事内容	低圧線の切断作業

作業員が電柱の切断作業中に、電柱が倒壊し、作業員が死亡した。原因は、電柱の切断作業中に、電柱の強度が低下していたことによる。また、作業員が安全対策を怠っていたことも原因の一つと見られる。

1. 次の場合、電柱倒壊防止対策をとる。
 (1) 木柱を伐採する場合は、
 ①電線や電柱で電柱を保護する
 ②電線が切れることで、電柱が倒壊する可能性がある場合は、電柱を保護する。
 (2) 電柱の切断作業中に、電柱の強度が低下している場合は、
 ①電柱の切断作業を中止する。
 ②電柱の切断作業を完了した後、電柱の強度を確認する。
2. 電柱倒壊防止対策として次のいずれかの措置をとる。
 (1) 電線及び電柱の切断作業時に、電柱の強度を確認する。
 (2) 電柱倒壊防止対策の取付け
3. 倒壊防止対策が不明な場合は、次の措置をとる。
 (1) 倒壊防止の安全対策として、倒壊防止から作業するまでの距離をより電柱には片付けない。

- 発生内容
- AM 09:20 現場に到着し、作業準備ミーティング及び安全対策を完了した。
 - AM 09:45 作業員が電柱の切断作業を開始し、電柱の強度を確認しようとしたが、作業員が電柱の切断作業中に、電柱の強度が低下したため、作業を中止した。
 - AM 09:55 作業員が倒壊した電柱を確認し、安全対策を確認した。
 - AM10:10 作業員は倒壊した電柱を確認し、死亡した。原因は、電柱の強度が低下していたことによる。

- 原因の概要
1. 作業員の倒壊防止対策が不足していた。
 2. 作業員が倒壊防止対策を確認する前に、作業員が倒壊した。
 3. 電線が切れることで、電柱の強度が低下した。



高圧線の種別誤作業者による高圧電線死亡事故

発生日時	2005年11月27日(火) AM10:10 前後
発生場所	福岡県 高宮町
災害種別	高圧電線接触
被害者	1名(作業員)
被害者	1名(作業員)
工事内容	高圧線の種別誤作業

作業員が高圧線の種別を誤認し、高圧電線に接触して死亡した。原因は、作業員が高圧線の種別を誤認していたことによる。また、作業員が安全対策を怠っていたことも原因の一つと見られる。

1. 高圧線の種別を誤認しないこと。
 (1) 高圧線の種別を誤認しないこと。
 (2) 高圧線の種別を誤認しないこと。
 (3) 高圧線の種別を誤認しないこと。
2. 高圧線の種別を誤認しないこと。
 (1) 高圧線の種別を誤認しないこと。
 (2) 高圧線の種別を誤認しないこと。
 (3) 高圧線の種別を誤認しないこと。
3. 高圧線の種別を誤認しないこと。
 (1) 高圧線の種別を誤認しないこと。
 (2) 高圧線の種別を誤認しないこと。
 (3) 高圧線の種別を誤認しないこと。

- 発生内容
- AM 09:20 現場に到着し、作業準備ミーティング及び安全対策を完了した。
 - AM 09:45 作業員が高圧線の種別を誤認し、高圧電線に接触して死亡した。原因は、作業員が高圧線の種別を誤認していたことによる。
 - AM 09:55 作業員が倒壊した電柱を確認し、安全対策を確認した。
 - AM10:10 作業員は倒壊した電柱を確認し、死亡した。原因は、電柱の強度が低下していたことによる。

- 原因の概要
1. 作業員の倒壊防止対策が不足していた。
 2. 作業員が倒壊防止対策を確認する前に、作業員が倒壊した。
 3. 電線が切れることで、電柱の強度が低下した。



人生は振り返り返らなければ理解できないが、前を向かなければ進んで行かない。
 セーレン・キエルクゴール

【死亡災害事例をパネル展示】



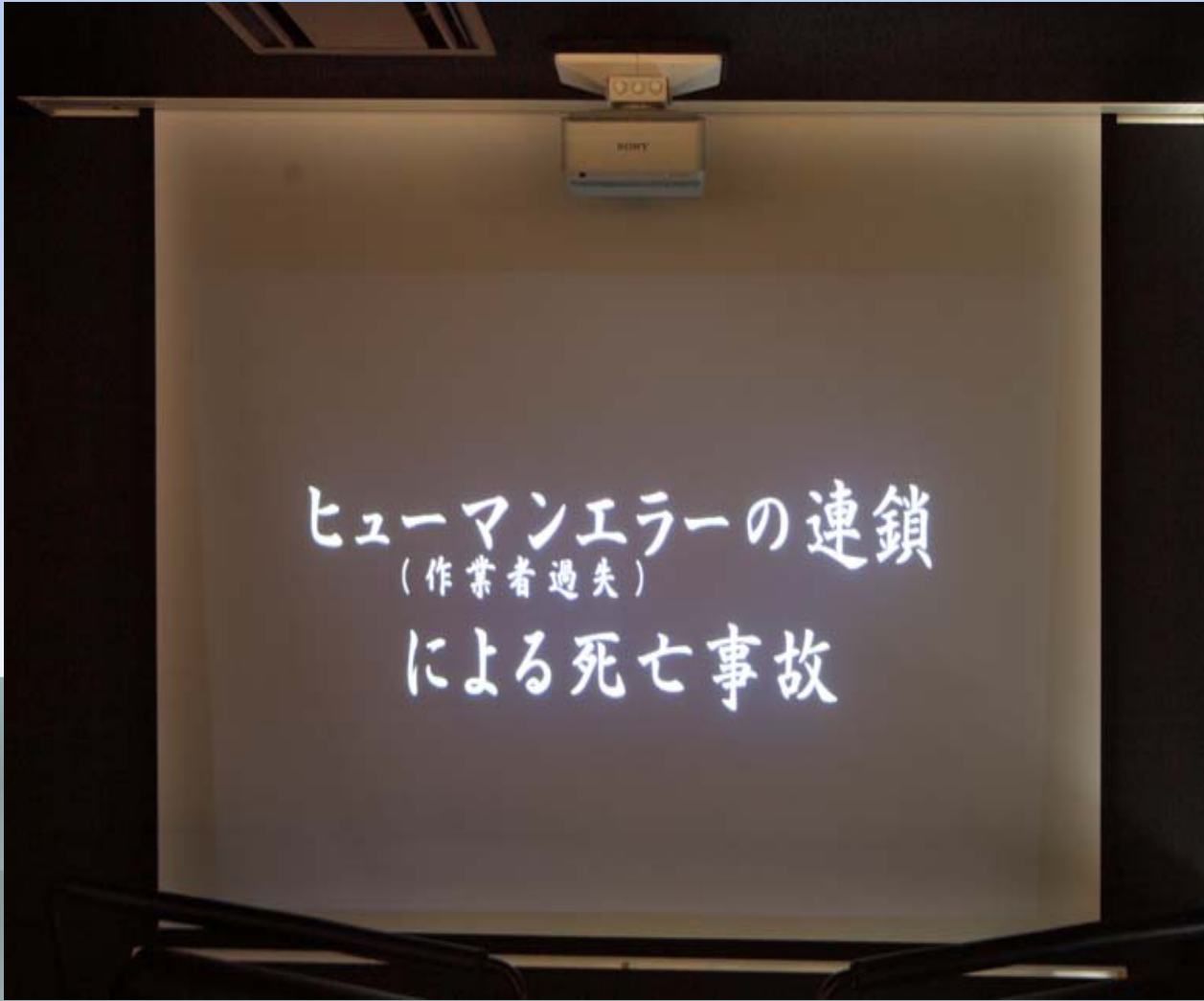
【「電柱倒壊死亡災害現場」のパネル展示】



【被災当事の上司、同僚など関係者の声(VTR)を見える化】

死亡災害発生時、被災者と一緒に働いていた同僚たちに、当時を思い出してもらいインタビュー。

先人・先輩たちが経験したことは思い起こしたくないが語り継がなければという思いで、災害当時の心境や周囲に与える影響、現在の自分をビデオで語りかける。またそれらをパネルにし災害の悲惨さを考えさせる(見える化)。

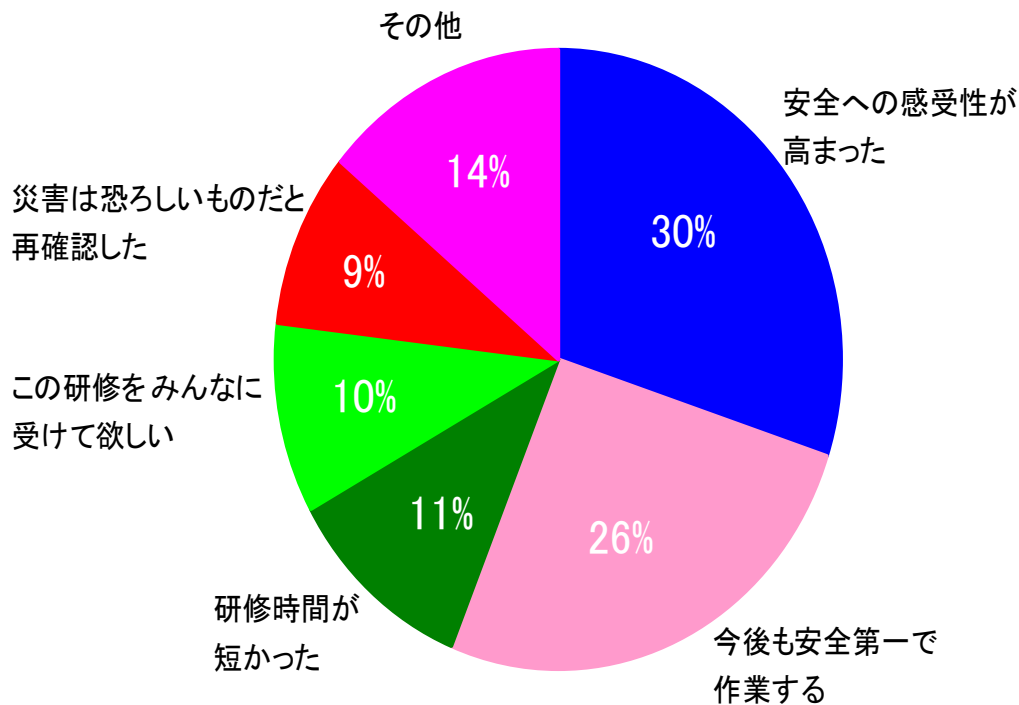


ヒューマンエラーの連鎖
(作業者過失)
による死亡事故

【災害ドキュメントの VTR映像】

当社で発生した死亡災害をもとに作成した災害ドキュメントを上映し、「ヒューマンエラーの連鎖で災害が発生するメカニズム」を考えさせ、学ばせるとともに、死亡災害の悲惨さを実感させる。

安全伝承館アンケート結果(自由意見)



【アンケート結果】

平成24年4月1日の開講から半年間で約1300名が研修を終え、「安全確保の重要性にあらためて気づき、これからの安全活動に積極的に取り組む」内容の感想が数多く寄せられるなど満足のいく結果が得られている。